

## 「水引小学校の寄田三尺棒踊り伝承活動の取組」

### 1 学校名

薩摩川内市立水引小学校

### 2 学年・人数

4年生（計19人）

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

令和5年9月～10月 水引小学校体育館

#### (2) 発表の日時・場所

令和5年11月3日（金）水引中校区総合文化祭

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

#### (1) 名称

寄田三尺棒踊り（よりたさんじゃくぼうおどり）

#### (2) 由来

鎌倉時代や戦国時代に始まったといわれる。各地で戦乱が相次ぎ、農地は荒廃したが、農民は自衛のための武器を持つことも許されなかった。

そこで農民は6尺または3尺の棒を担ぎ、護身に用いた。もともと武術の一種ともいわれるが、一説には田打ち行事の一つで、地面をとんとんつくのは田開きで虫追いだとする農耕儀礼説もある。昭和38年に県の無形民俗文化財に指定され、その伝統が受け継がれている。

#### (3) 構成等

3列縦隊、6人1組で踊る。紺緋に白襷をかけ、紺の足袋に草鞋、白鉢巻きをし、長さ3尺の木刀を持って勇壮に踊る。歌い手の「おーせーろー」の歌に合わせて踊り子が氣勢を上げながら踊りの隊形を整える。「さーさーさー」の踊り出しの歌と同時に、「はい」と踊り子は小手をかざして木刀を使いながら踊り始め、6人がらみ、3人がらみ、出棒＝受身の型、逆棒＝攻撃の型など交えて威勢よく踊る。

### 5 保存会や地域との連携の具体

年1回、6月第1日曜日に行われる新田神社の御田植祭において奉納を行っている。御田植祭の1月前ほどから準備が始まり、児童も保存会の方から教わりながら練習に取り組んでいる。夜間の練習になるが、保護者は子供の送り迎えをし、練習の間も見守っている。地域と保護者の協力に支えられ、子供たちは熱心に三尺棒踊りの伝承活動に取り組んでいる。

### 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

11月の文化の日で開催している「水引中校区総合文化祭」（10年目）では、毎年4年生が舞台での発表を行っている。また、ふるさと・コミュニケーション科の単元「ふるさとを学ぼう」で、5・6年生児童が、中学1年生と共に棒踊りの歴史や由来などを調べ「ふるさとを学ぼう合同発表会」で発表している。

## 7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【練習の様子①】



【練習の様子②】



【文化祭での発表の様子】

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【4年生児童生徒】

- ・ 難しかったけど，保存会の方に丁寧に教えてもらってうれしかった。
- ・ 先輩たちが踊ってきた寄田三尺棒踊りをいつか自分たちも踊りたいと思っていた。自分たちが踊る番になって自分たちの成長を感じた。
- ・ 文化祭での発表は緊張したけど，しっかり踊ることができて嬉しかった。よい体験となり自信にもなった。

### 【保存会から】

- ・ 毎年，4年生の指導をしているが，子供たちが一生懸命練習するので，教えていてやりがいがある。先生方も伝統芸能を受け継ぐ意義を理解して関わってくださるので，ありがたい。「寄田三尺棒踊り」の伝統を引き継いでいくこの取組を今後も継続してもらいたい。

### 【4年生担任から】

- ・ 寄田三尺棒踊りの取組を通じて，学校と地域とのつながりや信頼関係を築けたことがとても嬉しかった。子供たちは，この体験を通じて伝統工芸や伝統芸能などへの関心が高まり，社会科の学習に主体的に取り組むことができた。子供たちの体験が学びを深めるよい機会となった。